

第三次小樽市観光基本計画策定委員会(第6回) 会議議事録

日時:2026年7月10日(金)13:00～

場所:小樽市保健所講堂

1. 開会(進行:事務局)

- ・ 小樽市より開催案内があった。
- ・ 小樽市より配布資料の確認があった。

2. 議事(進行:委員長)

(1) 第5回小樽市観光基本計画策定委員会振り返り【資料1】

- ・ 事務局より資料1について、各議事の概要について説明。
- ・ 質疑等なし。

(2) KGI(Key Goal Indicator【重要目標達成指標】)の根拠について【資料2】

- ・ 事務局より資料2の KGI について、数字の根拠も含め説明。

(3) 第三次小樽市観光基本計画の KGI に関する意見交換

- ・ 観光消費額増加の外部要因として、円安や物価高が要因として考えられる。観光消費額が増加傾向にあるため、事務局の提案した観光消費額の目標値について異論はない。観光消費額の KGI が達成されると連動して市民にも恩恵が及ぶため、70%の市民満足度も達成されるのではないかと考える。令和の表記と並行して西暦でも表記いただきたい。4ページ上部の目標値と現状値は逆となっているため、修正いただきたい。
- ・ 10年間の先の長い計画であるため、計画期間中の見直しという点も踏まえ、中間目標の設定をしてはどうか。
- ・ 「インバウンドは引き続き好調」という記載は、事実と照らし合わせた際に検討が必要と考える。市民向けのガイド等で実感するのは、市民が小樽の魅力を漠然と、歴史があり、坂があり、運河があり というようなイメージを持っているが、具体的に何が、どんなことが魅力的なまちなのか、理解が不足しているという印象を受ける。これが、ギャップとなっている一因でもあるように思う。

(4) 第三次小樽市観光基本計画提言書案第2版について【資料3】

- ・ 事務局より資料3について、前回からの修正点も踏まえ説明。

(5) 第三次小樽市観光基本計画提言書案第2版の内容に関する意見交換

- ① 8ページ:各ステークホルダーと観光客の連携体制
- ・ 観光客と市民を中心に配置し、それを行政や DMO が支えるといった構図にしてはどうか。
 - ◇ 市民と観光客が中心である点は了承したが、一方で、本計画は小樽市として出すものであるため、行政がリーダーシップを取るため一番上にあるべきという意見もあった。
 - ◇ 立体的な構図にすれば市民と観光客を中心という表現にできるのではないかと。
 - ◇ 観光客と市民は上方にあまり離さず記載し、行政やDMOがその2者を下から支えるという構図が良いのではないかと。
 - ◇ 市民が中心にあるという意見も理解はできるものの、市民ができることは限られており、観光で果たす役割を考え、事務局案で違和感はないと感じている。
→ 事務局で持ち帰って整理する。
- ② 23ページ:2025年の小樽市への入込人数等について
- ・ 図 17 については、国内旅行者は都道府県別、インバウンドは国別で記載する予定か。
 - ◇ 国内旅行者は市町村別、インバウンドは国籍別で計測、記載する予定である。
- ③ 27 ページ:小樽観光の目指すべき姿について
- ・ 「真価」について背景などの追記は、理解しやすくなった。これに加え、小樽が物流拠点として果たした役割、北海道開拓や日本の近代化に寄与したという視点、そして、それを担ったのが「民の力」であり、その有形・無形の文化が、こんにちまで引き継がれているという視点も重要である。
 - ・ 真価という文言を深掘りいただけている。特に未来につなぐ点を強調していただいた点、3つの日本遺産も追記いただいた点、今も続く市民の力、現役世代にも触れられている点について事務局案に賛同する。市民と観光客の触れ合いという言葉が薄れたと認識しており、市民と観光客の触れ合いという言葉が観光振興をするうえで市民に何かを強いる形に聞こえるので良いと考える。
- ④ 29ページ:成果指標(KGI)の設定について
- ・ 年間観光消費額を達成するには滞在型観光の促進が必要で、宿泊人数が重要になるため、本計画に記載するとともに、DMO の KPI にて、宿泊者数を記載すべき。
 - ・ 「稼ぐ力」という文言は観光以外の立場から一般的なのか。商業的かつ直接的な文言であるため、修正が必要だと考える。
 - ◇ 「稼ぐ」という単語については国が使っている言葉である。「持続可能な観光」の

文脈で、経済の観点で「稼ぐ」という言葉がよく使われる。DMOガイドラインでも「地域に稼ぐ力を。」という記載方法がなされている。そのような背景も踏まえ、市の計画として適切な表現にするとよいのではないか。

◇ 「稼ぐ力」というキーワードは、分かりやすく違和感はない。

- ・ 市民が等しく観光の恩恵を受けるという点は非常に難易度が高いと認識している。市民は除雪や交通の問題が解決されると実感が湧きやすいので、観光インフラも市民インフラの1つであるという考え方のもと、市民が恩恵を受ける方向に進んでいただきたいと願っている。市民が恩恵を受けると記載されている点は評価する。
- ・ 目標に対する結果は重要だと認識しているが、その過程も大切であり、例えばDMOの施策の中で、どれだけ市民を巻き込んだ活動ができるかが重要である。それにより観光のまちとして誇りを持った生活を送ることに繋がると考える。
- ・ KGIについて、全国的なトレンドベースでの数値であることは良いが、その数値に到達するための具体的な宿泊者数目標値や来訪者数も記載いただければ投資行動等の具体アクションにも繋がるのではないかと考える。
- ・ 資料2の KGI の、「観光都市であることに魅力や活力を感じている市民の割合」の目標値の70%がある。この数値について、目標値の設定の根拠となるデータのサンプル数(母数)を教えてください。この母数でよいのか、という点が疑問である。

◇ サンプル数(母数)は会議終了後に改めて共有する。

- サンプル数 353 件(令和 7 年度第 1 回市政アンケート結果)

⑤ その他

- ・ 「部局横断的な調整」、「基盤整備」、「庁内各部局や近隣自治体との連携」などの文言は抽象的と考える。行政が先頭に立ち、市民を巻き込んでいくという認識が重要でそれにより市民の活動も活性化される。行政が旗振り役として先導する点は記載いただきたい。
- ・ 後志と道内の観光客の満足度を比較した際に、道内平均から5~10%低い結果となっており、原因は混雑とマナーが中心という調査結果がある。
- ・ 今後、のこり2回の委員会があるが、委員の皆様がこの基本計画に対して納得しているかどうか懸念点である。委員が持ち帰って時間をかけて読み込む時間を設けてはどうか。
 - 次回まで2カ月あるので、修正が完了した時点で委員にお送りしご意見を伺い、修正すべき点は修正したうえで次回の資料を作成する。
- ・ 市民会館でのイベントの際には、市民会館が年配者を中心に使われている場面を見て、お金を使わないのではなく、お金を使える場面が少ないのではないのかと考えた。特に年配者に焦点を当てた施策は住民の域内消費の促進、経済活性化に繋がるのではないかと考える。

⑥ 今後の進め方について

- ・ 会議終了後において意見が新たに生じた場合は、メール等にて事務局へ意見を送っていただきたい。(委員長)
 - ◇ いただいた意見でも反映できないこともあることをご了承ください。ただし、参考資料として資料1のように委員会において議論された内容は記載予定である。「観光客を選ぶ」、「稼ぐ観光」等、一部、言い回しについてのご意見もいただいております、文言のブラッシュアップも行い、修正した提言書案は早めに委員に展開する予定である。提言書案等について意見がある場合は、メールにて事務局まで送っていただければ、次回の検討資料に反映したい。

⑦ 提言書案に関する小樽市の庁内からの意見

- ・ 計画全体の表現として、観光客を選ぶというニュアンスが必要ではあるものの、傲慢であるようにとらえられる可能性があるという意見や、基本計画で具体的に記載してしまうと、DMOの裁量が減ってしまう懸念があり、基本計画として現在の提言書案は具体的すぎるのではないかという意見があった。
 - ◇ 戦略に寄り過ぎないように、抽象度を上げる可能性もあるが、その場合においても、資料編にて策定委員会で挙げられた委員からの意見は記載する予定である。

3. 提言書手交式について

- ・ 10月28日(水)14時より市役所本庁本館2階市長応接室にて実施予定。可能な限り出席をいただきたい。

4. 閉会

- ・ 小樽市より閉会の挨拶。
- ・ 議事録については1週間程度で清書し、委員へ共有を行う。内容に関する意見がある場合はメールにて事務局へ連絡いただきたい。
- ・ 次回第7回委員会は、9月18日(金曜日)13時より本庁消防講堂にて実施予定。

<配布資料>

- 会議次第
- 座席表
- 委員名簿
- 【資料1】第三次小樽市観光基本計画策定委員会(第5回)議事概要
- 【資料2】KGI(Key Goal Indicator【重要目標達成指標】)の根拠

➤ 【資料3】第三次小樽市観光基本計画提言書案第2版

<出席者>

委員名簿の通り